

大学連携事業による ICT を活用した共通基盤システムの運用

Trend of Comprehension Level of Information Basic Knowledge at University Entrance

石田雪也 (Yukiya Ishida)

Tel & Fax: 0123-27-6119 E-mail: y-kawani@photon.chitose.ac.jp

Eight of the university, including the Chitose Institute of Science and Technology is working to "promote proactive learning that utilize a common infrastructure system for the academic training," University cooperation projects from 2012. In this project, we have developed placement tests. In this paper, we analyze the test results of the past five years conducted at Chitose University of Science and Technology, and report on the change.

平成 24 年度文部科学省大学間連携共同教育推進事業（8 大学連携事業）において、大学生向けのプレイスメントテストを開発した。テストは、20 分 40 問の選択式で、各大学概ね入学段階に毎年実施している。高等学校での教科情報を基本に、情報活用の実践力 12 問、情報の科学的な理解 15 問、情報社会に参画する態度 13 問とした。本稿では、8 大学連携事業で開発したテストを、本学でプレイスメントテストとして活用した結果について報告する。本テストは 5 年間にわたり、同じ時期・方式で実施してきており、分野ごとの理解度や得点等の推移について焦点をあてる。

開発したテストは 5 年間で 8 大学合計 11,432 名が受験した。本学では、初年次必修科目の初回授業時に、e ラーニングシステム上で解答させる実施方法を採用した。表 1 に、5 年間のプレイスメントテストの結果を示す。全体の得点のほか、分野ごとに 100 点満点換算した際の得点と標準偏差を示す。表の網掛けの部分には、5 年間の平均点より低い部分を示している。年度ごとに見ると、平成 29 年度についてはそれまでに比べてすべての単元、合計ともに他の学年より低かった。また、実践に関しては、毎年低下傾向にあった。その他はそれまでの平成 29 年度以外過去 4 年間については、多少の上昇下降は見られるものの特筆すべき点は見当たらなかった。個別にみると、ユビキタス社会、通信手段の使い分け、SNS の特徴など 5 年の間で正答率の上昇、低下がみられた問も散見され、時代の変化によって変動があると考えられることから今後も長期的な分析を続けていく予定である。

表1 Table.1 Average Scores by Field for 5 Years

年度	25	26	27	28	29	平均
受験者数	177	160	171	190	206	904
実践	73.2	71.4	70.8	68.9	68.3	70.4
<i>SD</i>	18.3	14.2	15.1	16.3	16.8	16.4
理解	61.6	62.7	62.9	63.5	60.8	62.2
<i>SD</i>	17.8	16.7	18.0	17.5	18.8	17.9
態度	62.0	65.3	61.7	65.7	59.7	62.8
<i>SD</i>	18.5	15.8	16.8	15.7	17.2	17.0
全体	65.5	66.3	65.0	65.9	63.0	65.1
<i>SD</i>	15.5	12.7	13.7	13.7	14.7	14.2